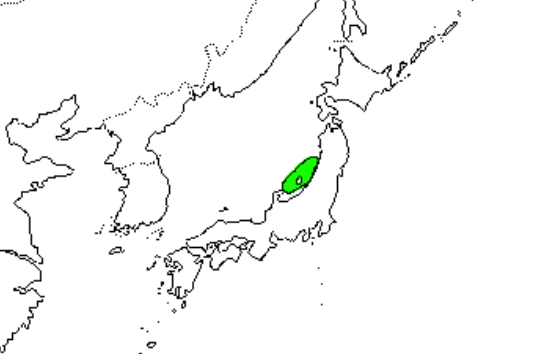


ダクト発生 4-7エリア間オープン

2007年 3月 2日 ~ 3月 4日 JG0TEV 中村

3月2日のダクト発生域 (推定)



北陸から東北の日本海海上で
ダクト発生によるオープンが確認されました

ダクト発生による7-9エリア間オープン状態が確認されました。

20時30分頃 佐渡+30db。珠洲市も聞こえる。
白根レピータはアクセスできない状況から、海上中心に発生している模様。
(J07IZC 須藤さん情報)

3月3日のダクト発生域 (推定)



山陰から東北にかけて
4-7エリア間オープンが確認されました

ダクト発生による4-7エリア間オープンが確認されました。

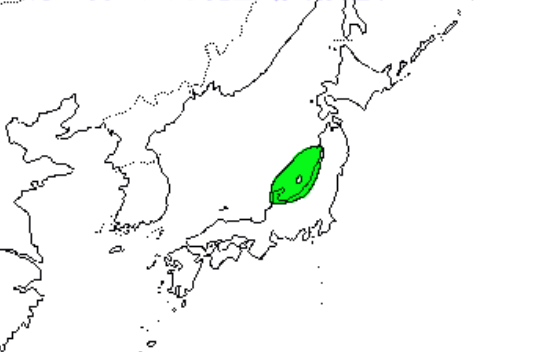
17:10 JA0VYI(新潟県加茂市) -J07IZC(秋田県にかほ市) RS59-59
17:22 JF0EUF(新潟県燕市) -J07IZC(秋田県にかほ市) RS53-59
17:32 J07IZC(秋田県にかほ市) -JG0TEV/O(新潟県長岡市) RS56-55 432.76MHz
*J07IZC 1W出力-JG0TEV/O ハンデ 1280mW出力+ロッドアンテナ
17:40 J07IZC(秋田県にかほ市) -JG0TEV/O(新潟県長岡市) RS52-59 432.76MHz
*J07IZC 600mW出力-JG0TEV/O ハンデ 1280mW出力+ロッドアンテナ
19:45 JI0LQJ(新潟県糸魚川市) -J07IZC(秋田県にかほ市) RS59-59
21:26 JI0FJE(新潟県糸魚川市) -J07IZC(秋田県にかほ市) RS59-59
22:09 JH0INE(新潟県新潟市) -J07IZC(秋田県にかほ市) RS57-59
(JH0INE局、八木つないでハンディ 100mWでの交信)

3月3日、9時頃から4エリアが開きはじめる11時には439.42レピータが、フルスケール状態になりましたがCQを出しても、相手はいない。
正午過ぎには4エリアは消滅。

その後9エリアまでは4日、18時30分ころまで開いていましたが急激に低下しはじめ19時30分位には消滅したと思われます。

今回のダクトは内陸に入りこんで来たものの不思議な事に、長岡レピータが強く聞こえていても長野のレピータが全く反応しなかった。これは、多分この冬の少雪を含む異常気象が影響していると考えてもいいのではないだろうか。
(J07IZC 須藤さん情報)

3月4日のダクト発生域 (推定)



ダクト発生により
9-7エリア間オープンが確認されました

ダクト発生による9-7エリア間オープンが確認されました。

12:52 JJ0AD0/O(新潟県佐渡市モビル) -J07IZC(秋田県にかほ市) RS59-59
18:03 JE0JJR(新潟県糸魚川市) -J07IZC(秋田県にかほ市) RS59-59

15:20頃から16:20頃にかけて、新潟市巻にて1時間あまりの散歩を楽しんだところ、天頂付近の青空に対して地上付近は白濁色となっていて、ダクト発生状態であることを確認した。(JG0TEV 中村)

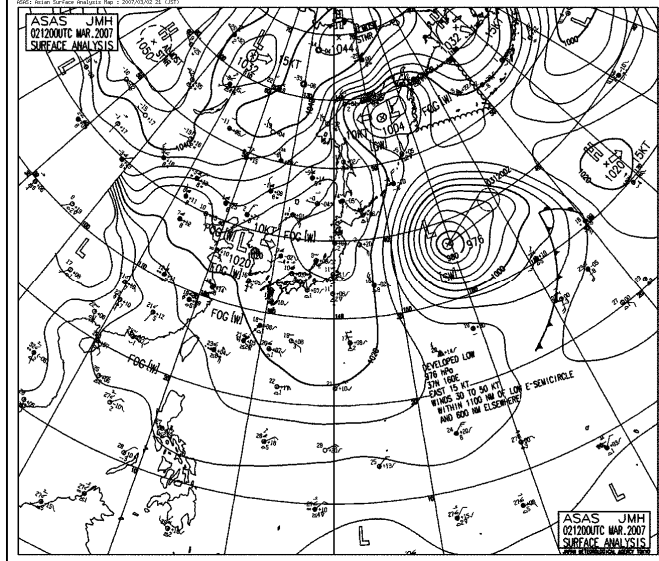


気象解析

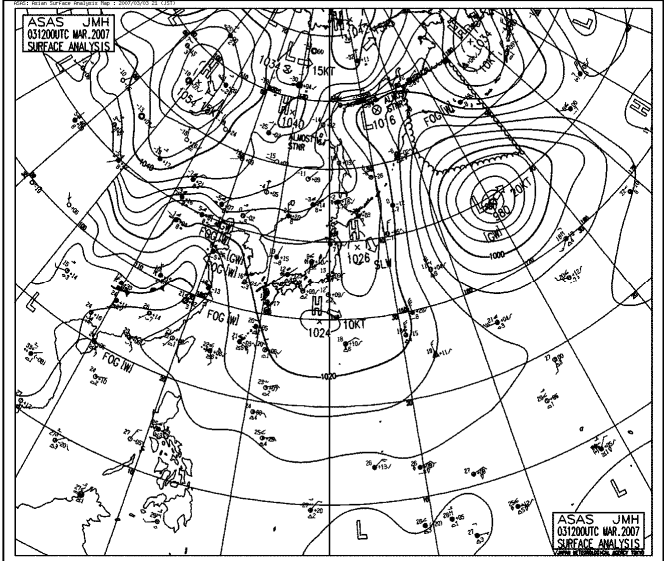
この期間は日本付近が移動性高気圧に覆われていたことがわかります。850hpa面解析図をみると、東北地方から日本海北部を0度の等温線が横切っていますが、一般的に寒気が遠ざかったあとの暖気移流の場となっていて気温が上昇傾向にあったことが読み取れます。エマグラムから期間を通して下層の湿潤空気に対してより上層で乾燥空気が流れ込んで逆転層が形成されていたことがわかります。4日21時における輪島のエマグラムでは気温だけを見ると逆転層が残っていますが、湿度変化は上空に行くほど高くなっていく傾向であったものと考えます。

地上天気図

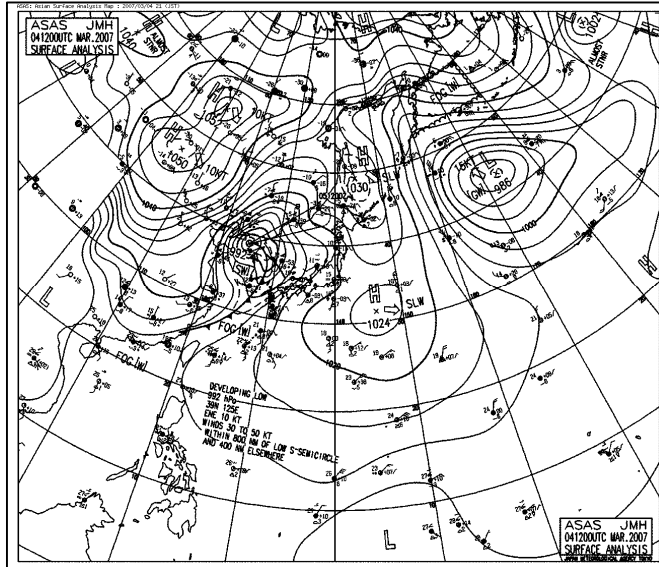
2日21時



3日21時

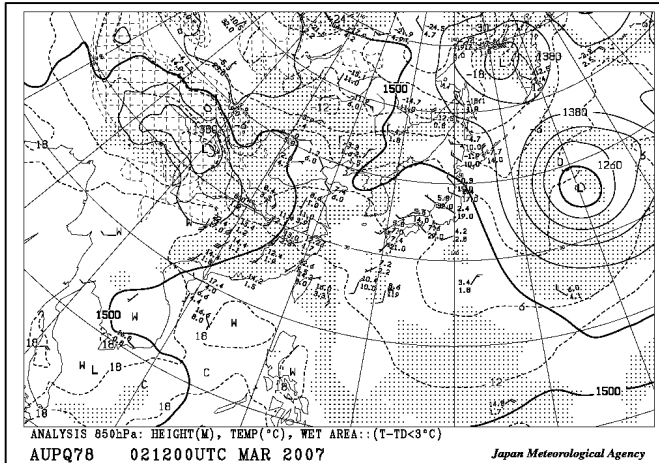


4日21時

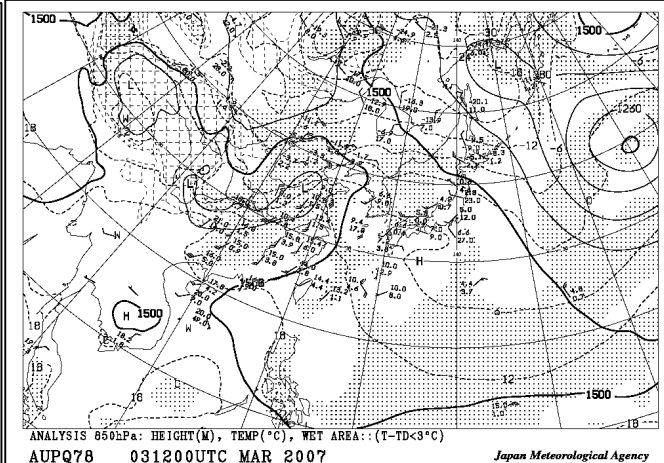


850hpa面高度・気温・湿数

2日21時



3日21時



ANALYSIS 850hPa: HEIGHT(M), TEMP(°C), WBT AREA: (T-TD<3°C)

AUPQ78 021200UTC MAR 2007

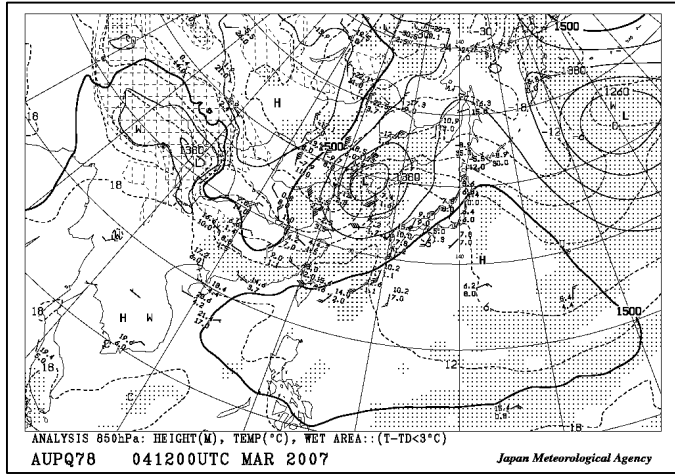
Japan Meteorological Agency

ANALYSIS 850hPa: HEIGHT(M), TEMP(°C), WBT AREA: (T-TD<3°C)

AUPQ78 031200UTC MAR 2007

Japan Meteorological Agency

4日21時

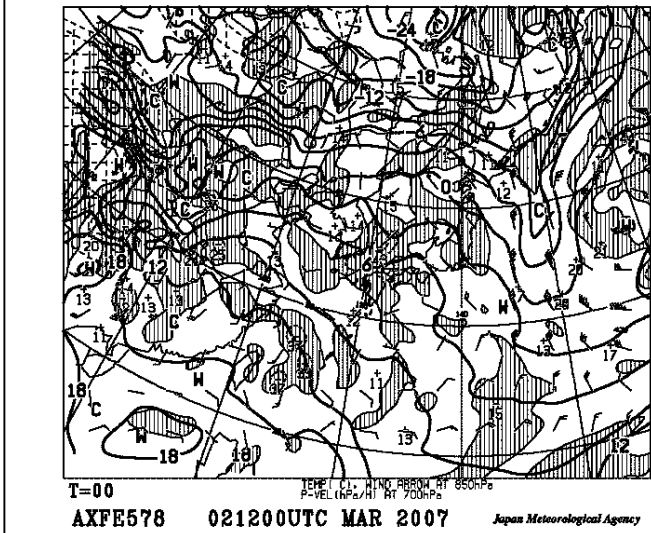
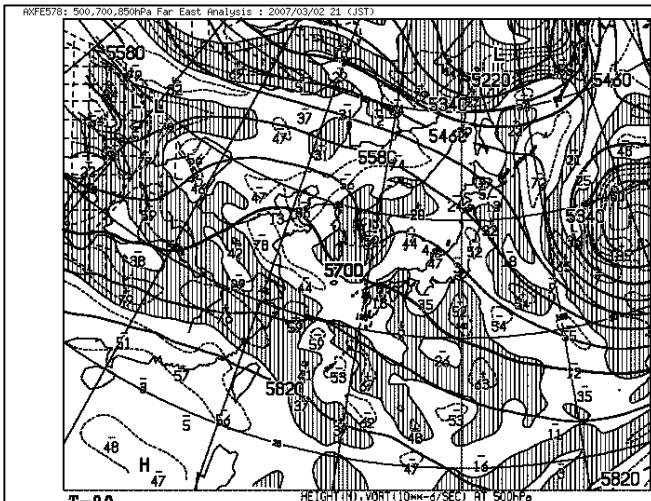


500hpa面解析図から、期間を通して上空のリッジに伴う負渦度領域に覆われていたことがわかります。日本付近を覆っていた高気圧背の高い高気圧であったと判断します。

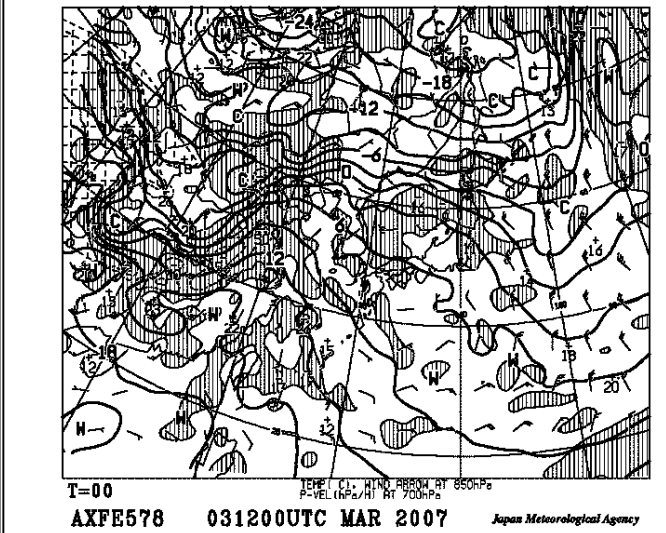
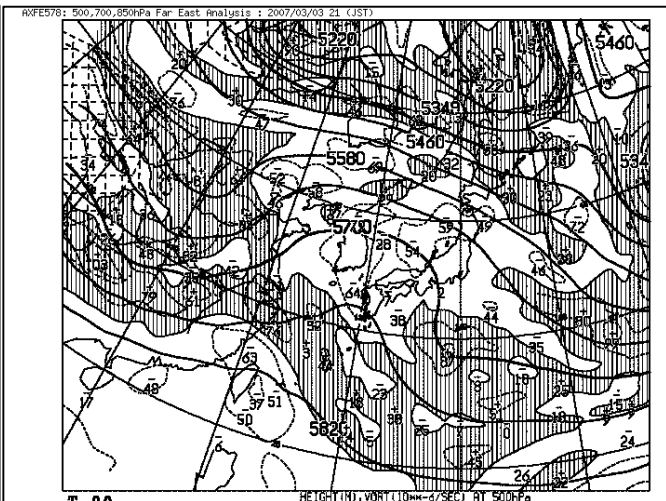
700hpa面解析図から、期間を通して上昇流域が卓越していますが空気が暖くなる過程において上昇流が卓越したものと推定します

以上から、ダクト発生条件はそりやすい条件にあったものと考えられます。

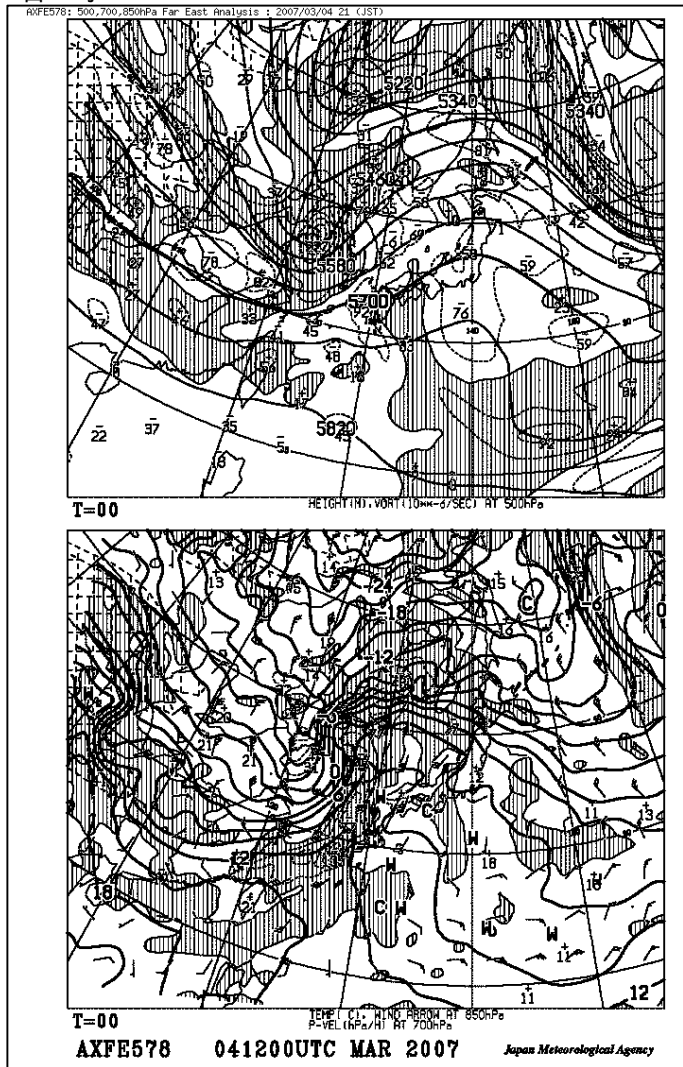
500hpa面高度と渦度・700hpa面鉛直流と850hpa面気温
2日21時



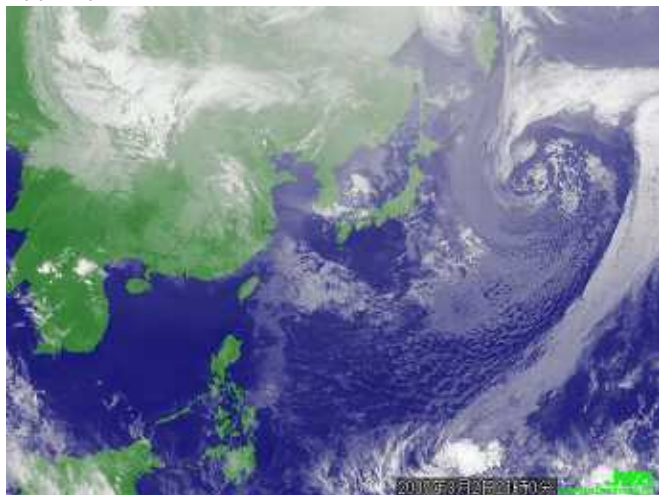
3日21時



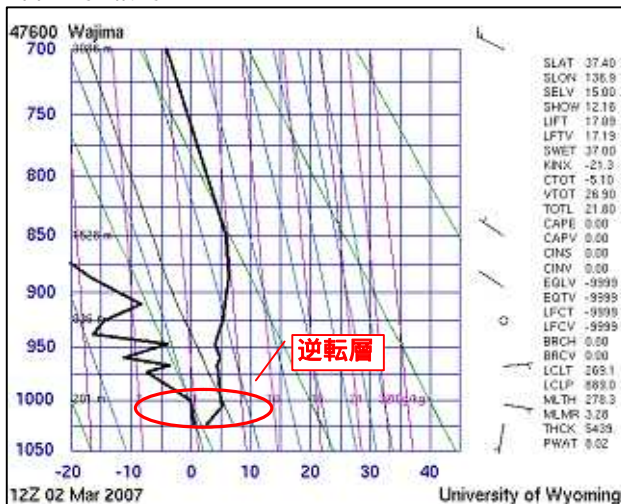
4日21時



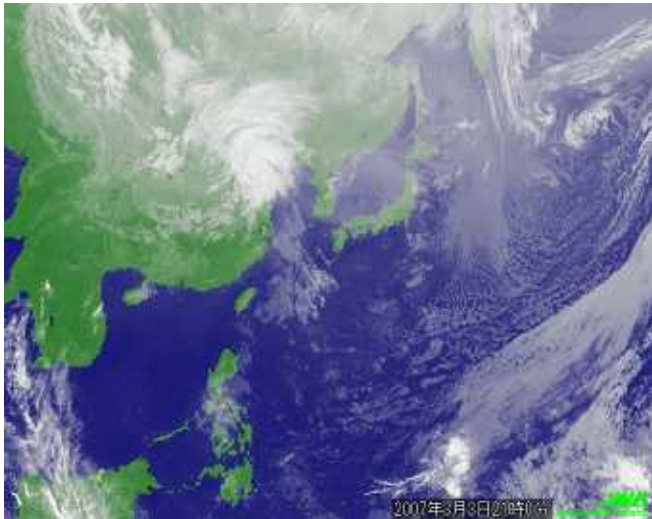
【参考】 赤外線雲画像
2日21時



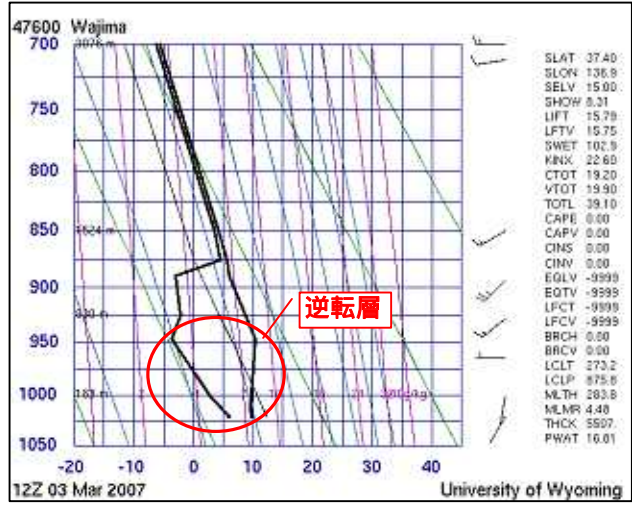
【参考】 エマグラム
2日21時 輪島



3日21時



3日21時 輪島



4日21時



4日21時 輪島

